



バプテスト心身障害児(者)を守る会
愛の手を

第208号

発行責任者
社会福祉法人 バプテスト心身
障害児(者)を守る会
重症心身障害施設 久山療育園
重症児者医療療育センター
理事長 宮崎 信義
編集責任者 鍋山 泰三
福岡県糟屋郡久山町大字久原 1869
☎(092)976-2281
FAX (092)976-2172

「絆」と「感謝の気持ち」を大切に

入所保護者会長／運営協議会委員

村津 俊博

コロナ感染の発生により生活環境が大きく変化し、不自由さを感じる時代となりました。既に2年半を経過し先の見通しも見えずこれからの生活に対する不安でいっぱいです。

又、直近のロシアのウクライナ侵攻により世界秩序が不安定となり不安が増す状況です。皆様はどの様にお感じでしょうか。

この中で久山療育園保護者会のメンバーも子供達との面会制限や集会の禁止により、子供達同様に寂しい思いをしている状況です。

その反面子供達は久山療育園の職員・関係者の方々の努力のお蔭でコロナの影響が最小限に抑えられ、元気で生活出来ている事は大変喜ばしい事です。

本当に有難く感謝致します。今回の騒動の中で何か大切な物が失われている気がします。人と人との関係がギクシャクし自己中心的な傾向が強まっていると感じます。

それは人との繋がりの『絆』や『感謝の気持ち』が弱まっています。

『絆』とは古くは絆を立木に繋ぐ綱の事を表し、近年に人との繋がりの意味に転じたものです。親子の絆、友人との絆と言われますが私達と療育園の絆は障害のある子供達が繋いでいると言えます。子供達に障害が無ければ本来出会う事の無い両者が同じ場所を共有し交流している事になります。その意味では子供達に感謝したいと思えます。

人間は一人では生存・生活する事は出来ません。他人とのコミュニケーションが必要で精神面を安定させる為に『絆』を感じるのだと思います。

『絆』は古代家畜等を立木に繋ぐ綱の事を表し、近年に人との繋がりの意味に転じたものです。親子の絆、友人との絆と言われますが私達と療育園の絆は障害のある子供達が繋いでいると言えます。子供達に障害が無ければ本来出会う事の無い両者が同じ場所を共有し交流している事になります。その意味では子供達に感謝したいと思えます。

久山療育園と保護者会は良好な関係を築き、強い絆で繋がっていると感じてます。

今年4月に『保護者会の総会』を3年ぶりに開催することができました。

感染状況から今年も駄目と

思っていました。療育園で総会開催の検討を頂き感染対策を徹底する条件で開催出来る事となり会員も喜んでおりました。

3年ぶりの再会で皆さんが元気で参加されている事を嬉しく思いました。

療育園には総会の準備や後片づけにも御協力頂き総会が無事に終了出来ました事を感謝致します。

- 『感謝の気持ち』の感謝とは
- ①有難いと感じてお礼を述べる事
- ②有難いと感じる気持ちを保持する事です。

他人から何かしらの援助や指導を受ければ、自然に『ありがとう』と言うのは普通ですが有難い気持ちを保持し目に見える形で無ければ伝わり難いと思いがちです。相手の希望に沿うものを確認しないと逆効果になり得ますので注意が必要です。

いずれにしろ私はこれから『絆』を深め、『感謝の気持ち』を持って、行動して行きたいと改めて思う次第です。

今後とも皆様より御指導頂けま

す様宜しくお願い致します。

理念と展望

創立理念と展望
「危機にあっても」

理事長 宮崎信義

新型コロナウイルス感染症が2019年11月頃、中国武漢市を中心に発生しました。現在は普通感冒の原因病原のうち4種のコロナウイルスによる感冒があります。しかし、2002年にはSARSといわれる重症型の新型コロナウイルス感染症が発生しパンデミック(世界的流行)を起こしました。

そして再び、今回の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)はSARS-2とも称され世界中を恐怖に陥れ、世界では5億人以上が感染し、死亡者も600万人を超えています。日本では、2020年3月末に東京都を中心に爆発的に感染者が急増し、「密閉」「密集」「密接」を防ぐ勧告がなされました。そして2020年4月7日には、「緊急事態宣言」(1回目)が7都府県に発令されました(第一波)。久山療育園では、それに先立ち2020年2月21日に2019年度第1回臨時感染対策委員会を開催し、標準予防策の徹底、マスク着用・手洗いの励行、場

合によっては個人防護具の着用など感染対策に努めて参りました。重症心身障害児(者)は感染抵抗性が弱く、慢性消耗性疾患や成人病などと同様に厳密な感染防御に努める必要があるからです。以来、感染の終息を願いながら、新型コロナウイルスの変異(アルファ株からオミクロン株)、パンデミックも今年1月には

第6波(日本医師会)となり、また第7波も懸念されています。事業継続計画(BCP)の策定

事業継続計画(BCP)の策定

危機は感染症だけではなく、近年増加している災害(地震・水害)、特に激甚災害に対処し、予測困難な場合も含めて「事業継続計画(BCP)Business Continuity Plan)を2024年4月までに策定をしなければなりません。また以前から持続可能な開発目標(SDGs)という考え方が提唱されていますが、この概念も更に広く気候変動や環境劣化、平和な社会

の維持等、より持続可能な未来を築くための地球規模のビジョンです。人間の歴史からは、ただの1世紀の間も戦争がなかった時を見ることが出来ないように思います。今年2月下旬に始まった「ウクライナ戦争(ロシアの侵略)」は長期化し、世界中に暗い影を落としています。

1981年の「全国重症心身障害児(者)を守る会の三原則」に、「決して争ってはいけない。争いの中に弱いもの生き残る場はない」・「最も弱いものをひとりももれなく守る」と決意が述べられています。正に、かくなるべしという思いが致します。私たち「重症心身障害児(者)」と共にある者は、感染・災害だけでなく、平和を守り作り出すことが求められています。

平和を希求し実現を願う者として

マタイによる福音書5章9節には、「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる」と記されています。今日の世界を見ると、創造的な平和とはただ平和を唱えるだけではなく、平和に対する良心的な自覚を絶えず新たにし、他者や民族が

違えば良き隣人とはなりえないのかと問う必要があります。「氷点」等の作品で知られている三浦綾子さんの詩集に「愛なる御神」という詩があります。「私たち人間は、一体いつの日から、人を憎むことを知ったのでしょうか。人を裏切ることを覚えたのでしょうか。『ゆるせない』という言葉を使い始めたのでしょうか。御神よどうか、私たちを洗い清めて下さい。柔和な心をお与え下さい。幼な心をお与え下さい。祈りともいえる詩がありました。久山療育園の設立聖句にも、設立の目的に「重症児が社会の片隅に收容されて生きるのではなく、むしろ地域の中心に位置付けられることを願う」と掲げられ、療育基本方針には「久山療育園は、病院であり学校であり家庭である。われわれは対象者を技術論的ではなく、全人的にとらえる。そのため、それぞれ最善の職

務的協力を進めることによつて、その専門的領域の働きを全うしなければならない」と謳われています。この理念が実現され継承されるためには「平和」「共生」「協働」が基盤になることが大切だと思えます。

おわりに

「危機」や「苦難」には、生の実感がこめられているばかりでなく、人生を意味あらしめ創造的にする使命があるという積極的な側面があると言われます。簡単なことではありませんが、苦難の解決を望むことが全てではなく、苦難をどう生きるか、そしてその先に約束されている希望を求めて参りましょう。

病気の
からだ
からの
人の
第12回

「コロナ時代を生きる」

センター長／理事 岩永知秋

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）がここまで続くとは、だれが予想できたでしょうか。すでに発生から約1年半が経過しましたが、これまでもこのテーマで書くことと思っただけで、新たな流行の波、新たな変異株、新たな体制と治療が出てくるため、書きそびれてきました。2022年5月には園内で、小規模ですが初めてクラスターも発生したので、一区切りとしてこれまでを簡単に振り返ってみようと思います。

2020年12月の頃、つまり1年半前、この病気が始まって1年たった頃に私が書きかけた文章があります。その頃どのように考えていたのか、ご紹介しましょう。

■2020年12月の文章（COVID-19発生から1年経過）

2020年が新年として幕開けしたとき、この年がCOVID-19との闘いの年だと誰が予想したことでしょう。

うか。日本の最近の災害とい

えば、地震、台風などの自然災害が主でした。今回のウイルスは、100年に一度の疫病による災害であり、しかも日本にとどまらずまさに地球規模の大災害の相を呈しています。人類の歴史において天然痘やペストの時代は有効な治療薬がなく、多くの犠牲者を出しました。新型コロナウイルスはこれらの疫病やSARSなどより致死率は低いものの、インフルエンザよりはるかに高く、また強い感染力を有しており、感染流行は瞬く間に地球を一周してしまいました。ことに医療事情の貧困が顕著な南米、アフリカ大陸などが心配ですし、先進国であるはずの米国でも、

政治的混乱による国内分断により社会経済的弱者層を中心に流行が進みました。これまでに国連や国際協力においてリーダー的立場を貫いてきた米国があっさりとその立場を投げ捨て、世界保健機関(WHO)からの脱退を通告しました。

国際間協調が地球規模において崩壊しつつある現代に、この有様では感染症の脅威はとどまるところを知らないようです。毎日のメディア報道も、コロナ感染症を扱わない日は1日とてありません。

■①未知のウイルス、コロナ（COVID-19）

インフルエンザ（新型コロナウイルス）とインフルエンザ（新型コロナウイルス）を合わせて、SARS、MERSを含めて最近の感染症はいろいろありました。しかしCOVID-19はこれまで人類が未経験のウイルスですので、今後どのように推移していくのか、だれにも正確にはわかりません。第1波のピークが過ぎた後、現在は第2波といつてよい感染者の急増が見られます。当初の予想として第2波は寒くなつて冬に到来するとされてきました。全く予想を覆して早くも第2波の到来です。そして11月になり第3波が到来しました。12月になり英国で変異株の出現が報告、伝播性が70%増加したとのこと。この後第4波、第5波が来るのか、ウイルスの変異が起るか、ウイルスの弱まるのか、逆に強まるのか、有効で安全性の

高いワクチンはいつかから使用可能となるのか、このウイルスはやがて消え去ってしまうのか、あるいはインフルエンザウイルスのように何度も襲来するのか、本当にわからないことばかりです。

■②コロナ時代をどう生きるか

ワクチンの開発、治療薬の開発に期待がかかりますが、いまのところ早急な展開は望めないようです。新型コロナウイルスの早期の消失が望めない以上、その感染予防策を打ちながらウイルスと共存していかなければなりません。ウイルスとの対峙と共存、難しい問題です。封じ込めができるのが改善の策ですが、それも難しいのが現実で、社会経済は常に動いていないと生活は成り立ちません。第1波の到来に際して、日本では緊急事態宣言で人の労働、移動に制限をかけた結果、流行は一定程度抑え込まれたように見えました。しかしその副作用として、諸外国と同様、日本の社会経済は旅行・交通・飲食業を中心に激的な影響を受けました。6月末から第2波として、感染者数からすれば第1波より大きな感染流行が勃発しました。政府のG0

toキャンペーンもタイムミン
グ悪く、この時期に一致して
しまいました。第1波の時の
ように人の動きや経済活動を
厳しく制限することには、諸
外国も日本の政府も慎重にせ
ざるを得ません。幸い重症者
数は今のところ多くないよう
ですが、これも予断を許しま
せん。オリンピック・パリリ
ンピックが開催されるのか。
今のところポストコロナでは
なくウィズコロナの期間にな
りそうです。

感染者が急増したときに医
療ベッドが逼迫し、医療崩壊
が危惧されました。実際、イ
タリアなどでは患者を適切に
収容できなくなり、また医療
関係者のバーンアウトも報道
されました。今は第2の医療
崩壊が危惧されています。コ
ロナウイルス感染者を受け入
れた病院だけでなく、他の病
院、診療所、クリニックなど、
患者数の激減（受診抑制など）
により経営的に窮地に追い込
まれているところが少なくあ
りません。今回の流行により、
医療病床にはある程度の余裕
を持つておくべきことが明ら
かになりました。コロナ後の
世界、あるいはコロナ時代の
先にあるものが何か、コロナ
のなかった時代と同じものな

のかどうかさえ、今は見通す
ことができません。

■その後のCOVID-19の主な動き

以上が2020年12月時点
での原稿ですが、箇条書きで
その後の動きを要約してみま
す。

2021年2月から日本でも
ワクチン先行接種が開始(2
回分接種)

2021年4月、第4波が
襲来、緊急事態宣言

2021年7月、いろいろ
議論があつた東京オリンピック
が結局1年遅れで開催、次
いでパラリンピックも開催と
なる。世界的にデルタ株が猛
威をふるい、日本でも7月か
らデルタ株による第5波が到
来、感染爆発にて医療逼迫を
招く

2021年12月からワクチ
ン接種3回目が行われる

2022年1月、オミクロ
ン株による第6波が急激に拡
大、日本では新規感染が1日
10万人超と最大の感染の波

2022年3月、まん延防
止措置解除となるも減少下げ
止まり、3〜5万人の1日新
規感染者

2022年5月、COVID-19
流行後のゴールデンウィーク

で、初めて行動制限なし。

院内クラスター初めて発生
(入所者1名+職員6名)・感
染の連鎖が追えるのは5名

2022年6月、高齢者お
よび基礎疾患を有する人に4
回目のワクチン接種開始

■2022年6月、振返って思
うこと

コロナウイルスは株の変異
を繰り返すことにより、流行
の波をこれまで6回作りま
した。医療面から振り返る
と、やはりワクチンの普及
がゲームチェンジャーでした。

2021年前半からワクチン
(mRNA)接種がわが国でも
開始され、1人につき2回の
接種が行われました。諸外国
に比較してワクチン接種の開
始と普及が遅れ、国は批判に
さらされる中、東京オリンピ
ック、パラリンピック開催も
あり、必死に普及に努めまし
た。この頃からデルタ株の世
界的流行が始まり、日本でも
第5波として多くの感染者が
発生しました。この変異株が

もたらずウイルス性肺炎は呼
吸不全をもたらし、特に大阪
などで入院病床が逼迫する厳
しい状況に陥りました。幸い
9月後半から流行は急激に消
退しましたが、12月頃からオ

ミクロン株が席捲し、私たち
は3回目のコロナワクチンの
接種を余儀なくされました。

2022年6月から60歳以上
のひと、および基礎疾患を有
する人を対象に、4回目のワ
クチン接種が行われています。

ワクチンに次ぐCOVID-19
制御の第2のゲームチェン
ジャーは、治療手段の確立
にありました。まずは重症
肺炎例に対してステロイド

薬の有効性が示され、また
ECMOによる救命が進みま
した。やがて軽症例に対して
も、2021年から22年にか
けて抗体治療薬や経口薬が登
場し、医療者は有力な武器を
手に入れました。22年1月に
はオミクロン株への急激な置
き換わりと、これまでにない

多数の感染者をもたらしまし
た。この変異株は感染力が強
く、デルタ株に比べ若年層で
の流行が目立ちましたが、重
症化するのには肺炎によって
はなく、基礎疾患を持つ人や
高齢者である点がデルタ株と
は異なりました。デルタ株か
らオミクロン株への変異に伴
い、COVID-19の重症度
は漸減してきた感があります。

一方、罹患者の中には、少な
からず後遺症に悩む人がいる
ことも報告されています。

社会面から振り返ると、数
回にわたる緊急事態宣言とま
ん延防止等重点措置などによ
り、多大な社会・経済的損失
がもたらされました。ストツ
プ・アランド・ゴーが不規則に
繰り返されると、人々の精神
的・肉体的ストレスも蓄積さ
れました。諸外国では都市の
ロックダウンなど強硬な手段
も取られ、今回のオミクロン
株では中国上海のロックダウ
ン(2022年6月1日に解
禁)が話題となりました。オ
ンライン会議やリモート勤務
などの工夫も行われましたが、
とりわけ学生教育は大きなダ
メージを受けたのではないで
しょうか。

一方ウイルス側からみる
と、新型コロナウイルスは生
き残りをかけて株の変異を行
ってききました。アルファ株か
らいくつの変異を繰り返しま
しましたが、ことにデルタ株の
流行は感染者、入院・死亡者
の点で大きな脅威となりまし
た。ウイルス性肺炎に対して
ECMOなどの呼吸管理や各
種の治療薬の開発により、人
類はこの流行の波を乗り越え
ました。しかし、その後すぐ
に現在のオミクロン株が流行
し、その感染力の強さから世
界中で多くの感染者を生み出

しました。

2020年12月時点より現
在は、ポストコロナ、ウィズ
コロナの時代は近づいている
気がしますが、いまだにその
姿はぼんやりとしか見えませ
ん。そしてまた、2020年
初頭にこの感染症の出現など
夢にも思わなかったことと同
様、2022年2月に予想も
しなかったウクライナ戦争が
2月末に勃発し、まだまだ拡
大、長期戦の様相を見せてい
ます。地球や人類の歴史は人
知を超えてつくられることを、
あらためて思い知らされてい
る現実があります。2022
年5月には園内で小規模クラ
スターを経験し、久山療育
園としてもいろいろなることを
学びました。明るい未来を少
しも描くことができるよう、
COVID-19とウクライナ戦
争が早く終結することを皆様
とともに、祈るような気持ち
で待ちたいと思います。

2022年5月27日第1回理事会承認
2022年6月17日第1回評議員会承認

2021年度 決算概要

2021年度に於いてもコロナウイルス感染拡大が継続し、感染対策に力を注ぎつつ短期入所事業や通所事業などの事業を継続し利用者家族の負担軽減と園内感染を発生させないための体制に配慮した1年となった。

このような状況下であるため、入所を希望する待機者の方々に対し、7月より短期入所枠の内、1床を入所枠に変更した(6→5床)。また短期入所の稼働率増のためID-NOW(遺伝子検査解析装置)を導入し、個室隔離日数の短縮に繋げた。

重症者ホームについては、4月より重度障害者支援加算の取得と10月より日中サービス支援型グループホームへ移行し、年間の収支で△10,000千円を切れる状況まで収支を改善することができた。

社会福祉法改正に伴う「社会福祉充実計画」に於ける、既存建物用地取得に関しては2022年度に移行することとした。

資金収入全体では、対計画比103.6%、支出は人件費、事業費、事務費総額では対計画比103.4%となり当期資金収支差額は12,605,187円となった。

事業活動から見た全体収益では、前年度対比103.9%、費用は減価償却費等も加えて前年度対比104.4%となり、企業会計における当期純利益である当期活動増減差額は△104,864,114円となった。

2022年度に於いてもコロナの制約が続いており厳しい状況は変わりません。

今後事業活動収支計算書についても健全となる目標を立て、収入・支出においても様々な取り組みを行い適正に事業継続ができる体制となるよう取り組んで参ります。

資金収支計算書

(自) 2021年4月1日 (至) 2022年3月31日

(単位: 円)

勘定科目		予算 (A)	決算 (B)	差異 (A)-(B)	
事業活動による収支	収入	児童福祉事業収入	3,611,000	3,846,894	235,894
		障害福祉サービス等事業収入	486,454,000	513,993,434	27,539,434
		医療事業収入	812,190,000	812,270,835	80,835
		経常経費寄附金収入	19,030,000	19,021,583	△ 8,417
		受取利息配当金収入	1,010,000	1,822,282	812,282
		その他の収入	6,339,000	6,939,510	600,510
	事業活動収入計 (1)		1,328,634,000	1,357,894,538	29,260,538
	支出	人件費支出	1,050,129,000	1,063,478,151	13,349,151
		事業費支出	161,465,000	164,229,603	2,764,603
		事務費支出	106,040,000	105,537,226	△ 502,774
事業活動支出計 (2)		1,317,634,000	1,333,244,980	15,610,980	
事業活動資金収支差額 (3)=(1)-(2)		11,000,000	24,649,558	13,649,558	
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	0	0	0
		固定資産売却収入	0	26,780	26,780
		施設整備等収入計 (4)		0	26,780
	支出	固定資産取得支出	211,000,000	11,402,570	△ 199,597,430
		施設整備等支出計 (5)		211,000,000	11,402,570
施設整備等資金収支差額 (6)=(4)-(5)		△ 211,000,000	△ 11,375,790	199,624,210	
その他の活動による収支	収入	長期貸付金回収収入	0	210,000	210,000
		積立資産取崩収入	200,000,000	0	△ 200,000,000
		その他の活動による収入	0	717,562	717,562
		その他の活動収入計 (7)		200,000,000	927,562
	支出	長期貸付金支出	0	0	0
		積立資産支出	0	1,539,923	1,539,923
		その他の活動による支出	0	56,220	56,220
		その他の活動支出計 (8)		0	1,596,143
その他の活動資金収支差額 (9)=(7)-(8)		200,000,000	△ 668,581	△ 200,668,581	
予備費支出 (10)		0	0	0	
当期資金収支差額合計 (11)=(3)+(6)+(9)-(10)		0	12,605,187	12,605,187	
前期末支払資金残高 (12)		430,812,793	430,812,793	0	
当期末支払資金残高 (11)+(12)		430,812,793	443,417,980	12,605,187	

「令和4年度全国施設協議会報告」

（Zoom会議）

理事長 宮崎 信義

2020年度(令和2年度)には、新型コロナウイルスのパンデミックにて開催中止となり失意を覚えました。しかしながら、昨年の令和3年(2021年)に続いて、令和4年度の全国重症心身障害施設協議会もZoom会議となりました。オンライン参加者は470名(129施設)を数えました。開催拠点や担当された施設のご苦労が偲ばれます。私も多くの貢献された方々のご苦労に深く感謝するものです。

「行政説明」「障害児福祉関係施設」の動向について

講師は厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部・障害福祉課 障害児・発達障害者支援室の移行支援専門官の岡崎俊彦氏からなされました。以下に概略を列挙致します。

I. 令和3年度報酬改定の内容

①令和3年度障害福祉サービス等報酬改定の基本的な考え方とその対応：令和3年度障害福祉サービス等報酬改定は、各サービスの報酬・基準についての見直しを行うとされました。 ※令和3年度障害福祉サービス等報酬改定率：+0.56%。
①障害者の重度化・高齢化を踏まえた地域移行・地域生活の支援、質の高い相談支援を提供するための報酬体系の見直し等・グループホームにおける重度化・高齢化に対応するための報酬等の見直し・生活介護等にお

ける支援の評価の見直し・質の高い相談支援のための報酬体系の見直し。
②効果的な就労支援や障害児者のニーズを踏まえたきめ細かな対応・・・就労移行支援・就労定着支援(詳細は略)・医療型短期入所における受入態勢の強化。

③医療的ケア児への支援などの障害児支援の推進・・・医療的ケアが必要な障害児(医療的ケア児)に対する支援の充実・・・「医療的ケアの新判定スコア」・放課後等デイサービスの報酬体系等の見直し・児童発達支援の報酬等の見直し・障害児入所施設における報酬・人員基準等の見直し。

④精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの推進(詳細は略)。
⑤感染症や災害への対応力の強化等・・・感染対策の強化や業務継続に向けた取組の推進・障害福祉現場におけるICT(情報通信技術)の活用。
⑥障害福祉サービス等の持続可能性の確保と適切なサービス提供を行うための報酬等の見直し・・・医療連携体制加算の見直し・障害者虐待防止の更なる推進及び身体拘束等の適正化の

推進、福祉・介護職員等特定処遇改善加算等の見直し 等でした。

II. 障害児入所運営指針の概要(追加資料を含む)

○令和2年2月にとりまとめられた「障害児入所施設の在り方に関する検討会」報告書において「質の保障の観点より運営指針の作成及びそれに沿った運営支援が行われる必要性がある」と提言。

○提言を受け、障害児入所施設の支援の質の担保・向上に資することを目的として、厚生労働省令和2年度障害者総合福祉推進事業において「障害児入所施設運営指針(案)」を作成し、令和3年に発出した。以下略。

努力あてに全国肢体不自由施設運営協議会会長小崎慶介先生、日本重症心身障害福祉協会会長児玉和夫先生の連名で要請書を郵送した。

報告事項II. 福祉問題検討委員会(入所支援・在宅支援)報告

①障害福祉サービス報酬増額改定への取り組み・・・平成29年実態調査の収支差率に比べても療養介護は3.3%から1.6%、医療型障害児入所施設2.2%から1.9%と改善どころかむしろ悪化している実態が明らかとなり、今回(令和3年)の改定(+0.56%)では一定の増額改定をしていただけたものと考えている。

②入所支援部会・・・新型コロナウイルス感染症の蔓延で、施設入所者の感染予防やゲリラ的な施設内感染の発生やクラスター化の波にもまれ、疲弊している施設も増加している。

③在宅支援部会・・・令和3年9月、医療的ケア児支援法が施行となり、在宅医療的ケア児への支援体制充実がさらに図られることとなった。令和4年3月、全国的規模での家族会組織「全国医療的ケアライン」が発足している。新設された医療的ケア

報告事項I. 「医療問題検討委員会報告」 ～「2022年診療報酬改定項目について」への活動報告

○各施設のデータ集積加算の算定の有無や診療情報関係の電子化の状況：アンケート調査。 ○猶予期間があるようなので、その点への要望をしていくこととなり2022年2月9日に厚生労働省保険局医療課長井内

児区分や短期入所日中活動加算等についても内容を検討して参りたい。

報告事項Ⅲ 令和3年度実態調査委員会活動報告

①実態調査委員会：第1回令和3年12月16日・オンライン開催個別チェックリスト集計プログラムについて。第2回令和4年2月1日～9日・メール「院内感染状況」「入所児者の骨折状況」等。調査表改定

②令和3年度施設実態調査表の作成：例年通りの様式で施設実態調査表を実施した。超重症児者準超重症児者実態調査は実施しなかった(令和4年度に個人チェックリストの集計プログラムを作成し、令和5年度より遡って作成予定)。

③施設実態調査表の改定：◎個人チェックリストの改定。・長期入所利用者についての調査項目の殆ど(感染症、骨折関係は除く)は個人チェックリストよりすべて自動算出し、個人情報保護の観点から集計結果のみ提出してもらうことにした。(以下略)

「講演」「障害児の医療ケアの流れ ～障害児ニーズの変遷」

1. 障害児の医療ケア…①当園での医療ケアの現状②長期入所者の変遷③短期入所利用者の現状④医療ケア能力・持続力と在宅・施設利用ニーズ⑤医療ケアの有用性の再評価・評価視点。

2. 長期入所候補として「短期利用者の医療ケアの保護者の認識差?」

①経口摂取と誤嚥リスクの認識：吸引・経鼻栄養の医療ケアの介入時期、胃瘻造設の決断時期とそのケア。気管切開術の決断時期とそのケア。②自己(事故)(胃瘻・気切カニューレ)抜去リスク予防

③考察：・医療ケア開始年齢は幼少期1～5歳が最も多く、基礎疾患も含め救命するため医療ケアが猶予なく始められている利用者が大半である。・医療ケアは成長・発達で軽快を期待され内科的医療ケアで維持されていたが、繰り返し誤嚥肺炎等から相対的外科的医療ケアの適応になり、相対的であるが故に決断する猶予も断続的になる、保護者・主介護ケア能力・体力、世代交代時期も相まって利用者の15～30歳前後に増えると思われる。

「特別講演」「在宅医療と移行医療の現状」

1. 小児医療の現状について：2008年当時、周産期医療センターや総合病院小児科病棟には、退院できない人工呼吸器や気管切開児が必ずという程長期入院していた。退院希望症例に対して、成人障害者対象の制度やわずかな資源をやりくりして、できる範囲での退院支援をしていた。

2. 「小児」と「成人」の在宅医療：「現代的な成人の在宅医療」は1970年代から始まり、1980年代に入り診療報酬が次々と新設。

3. 「東京都立墨東病院妊婦死亡事件」：2008年10月に激しい頭痛を起した妊婦の救急受け入れ先が見つからず、児を出産後、母が頭蓋内出血で死亡したことが報道された件。受け入れ困難理由を精査したところ、NICU(新生児集中治療室)に人工呼吸器や気管切開など重度な「医療的ケア」が必要な児が多くなったこと。そのような児が退院困難となり年単位でNICUに長期入院し、本当に今治療の必要な児が入院できなくなっていることがわかった。多くの妊婦がNICUに児が入

院できないことを理由に救急受け入れを断われたり、自宅から遠いNICUに入院させられている事態が、全国調査で東京都以外の周産期医療センターでも生じている。以下略。

「講演」「気管切開患者と安全な過ごし方」～カニューレフリーのケア管理も含めて

※気管切開・カニューレの管理：①気管切開自体は下気道の管理はより容易にはなるが、嚥下には不利な条件になることを確認する。重症心身障害児では一度気管切開術を施行した場合は、気管切開を閉鎖する可能性は稀であるので、手術の計画は将来を見据えた慎重な対応が必要である。②気管内吸引の際などに出血が見られた時はその出血源を必ず確認したい。鼻咽腔・口腔からの流れ込み、気管切開孔周囲、カニューレ彎曲部、吸引チューブの強い刺激による気管分岐部などからの出血が多いが、原因が明らかでない持続する出血がある場合には、内視鏡下に詳細な観察が必要である。③気管切開が嚥下に及ぼす影響：嚥下時の喉頭挙上・閉鎖が妨げられる。喉頭内に侵入するものを自力排除でき

ない等。おわりに 毎年5月に開催されている日本重症心身障害福祉協会総会及び全国重症心身障害施設協議会は、参加する各法人・施設にとつて年間最大最重要の会議です。行政説明や喫緊の課題をテーマとしたシンポジウムや講演、更には施設間交流を通して所属する施設の運営方針、そして何よりも対象者である重症心身障害児(者)の実態や、支援課題と必要性を考える原点として参りました。令和5年(2023年)の開催は、愛媛県で担当施設の愛媛県立子ども療育センター若本裕之所長の挨拶で閉会しました。

第52回福岡県重症心身障害施設協議会報告

センター長 岩 永 知 秋

福岡県重症心身障害施設協議会は、福岡県の重症心身障害児者施設、12施設(国立病院機構3病院、公法人立施設9施設)および福岡県福祉労働部障がい福祉課の参加を得て、定期的に年2回意見・情報交換などを行う貴重な機会です。昨年はコロナ禍のため中止やオンラインとなった回がありました。今回第52回は2022年6月2日木曜日、福岡病院に当番施設をお願いし、午後2時から2時間余り開催しました。今回の参加は12施設中8施設で、コロナ禍における施設内のルールによるものか、公法人立施設の4施設が欠席となりました。福岡県福祉労働部障がい福祉課からもいつものごとく、山本主任主事をはじめ計4名のご参加をいただきました。

協議会では当園宮崎理事長から、5月19〜20日の2日間にわたって行われた全国重症心身障害施設協議会の内容と、併せて行われた講演について詳細に報告されました。次いで福岡県障がい福祉課から医療的ケア児支援施策、レスパイトケアサービスの拡充・利用促進について、現況報告がありました。

医療的ケア児に対する施策として、「福岡県医療的ケア児支援センター」の開設と、開設記念講演会(2022年8月7日予定)のご案内がありました。

その後各施設から施設の人事異動の紹介、COVID-19対策、そのほかの取組み、利用者状況などが報告されました。主題はコロナ対策であり、面会、短期入所などの工夫、感染対策委員会における対策レベルの設定、職員のPCR検査、ワクチン接種の進み具合、職員・利用者からの発症患者とその経緯などが報告されました。どの施設も細心の注意を払って、感染防御に努めておられる様子がわかりました。最後に、2つの話題提供を当方から行いました。

1つはBCP(事業継続計画)における、本協議会参加施設同士での協力体制を呼びかける提案です。BCPに関してはまだ取り組みが進んでいない施設もあり、確たる意見は出ませんでしたので、まずはこの協力の可否についてアンケート調査を行うこととしました。

2つ目は当園の吉本看護部長から、注入用イリゲーターの単回使用について各施設の現況をお聞きするものでした。都道府県によつてこの扱いが異なるようであり、また財政的に大きな負担を伴うものであることから、今後も継続審議といたしました。

今回は今年12月8日(木)午後2時から久山療育園での開催といたしました。この年末にCOVID-19流行がどのような状態にあるかまだ見通せませんが、オミクロン株に変異してからは医療への圧迫状況は好転しているようです。次回も対面方式で本協議会を開催できることを心から期待したいと思えます。

役員人事報告

理事1名の退任により、6月17日(金)に第1回(定時)評議員会が開催され、下記の理事1名が選任されました。

- 理事(敬称略)
- (退任) 中村 晴光
- (新任) 鍋山 泰三

任期は2022年6月17日第1回(定時)評議員会終了時から退任理事の残余期間(2023年6月まで)です。

メモ帳

- 【4月】▽1日・4日 新入職員オリエンテーション
- ▽4日・8日 通所始園式
- ▽5日・6日 病棟新入職員オリエンテーション
- ▽6日 福岡特別支援学校 始業式
- ▽7日 福岡特別支援学校高等部入学式
- ▽7日 認定看護師研修運営会議(Zoom)
- ▽15日 イースター
- ▽16日 保護者会理事会
- ▽18日 託児所避難消火訓練
- ▽22日 誕生会
- ▽24日 保護者会総会
- 【5月】▽2日 新入職員オリエンテーション
- ▽19日・20日 日本重症心身障害福祉協会定期総会 全国施設協議会(Zoom)
- ▽24日・26日 職員検診
- ▽27日 2022年度第一回 理事会
- ▽30日・31日 通所 運動会

職員の異動

- (2022/4/2〜6/30)
- 【採用】
- 5/1付
- ▽岸本真由美(看護師)
- ▽町田志磨子(療育員)
- 【退職】
- 4/30付
- ▽佐伯 友美(看護師)
- ▽山口 直子(看護師)
- ▽城戸 知子(介護福祉士)
- ▽中村 心(介護福祉士)
- ▽福増恵美子(療育員)
- 5/31付
- ▽樋口 幸美(看護師)
- 6/17付
- ▽中村 晴光(事務局長)
- 6/30付
- ▽村島 未優(看護師)
- ▽塩川 祐佳(作業療法士)
- ▽登本 友花(調理員/栄養士)

めぐみ棟より

「バスにのって ゆらゆら〜」

ゴーツ♪ゴーツ♪
今年もバスハイクが始まりました！

桜やツツジなど季節の花や水路を流れる鯉、冷たい風や暖かい風をバスの中から楽しめます。外の景色だけでなく、バスそのものの揺れも楽しみの一つ！ガタンと大きな揺れが来ると、楽しそうに声を出して笑い出す方もおられます。

30分という短い時間ですが、その中で季節の移り変わりを感じて少しでも気分転換できるように今後も楽しいバスハイクを実施していきます！

(めぐみ棟 保育士 柳有似子)

レッツゴー！



桜発見!!!

「はじめてのイースター」

今年の4月から私を含め、9人の新人職員が入職しました。入職してから早2ヶ月が経ち、少しずつではありますがいろいろなことに慣れてきました。

4月のイースターでは、新人職員がそれぞれひよこの絵に色を付けた折り紙などを貼って、個性豊かなひよこになりました。お披露目の時には、可愛らしい親鳥のあとをピヨピヨとついていき、利用者の方々に挨拶をしました。ゲームはお題に合わせて新人職員で同じポーズをしました。野球のポーズは残念ながら揃いませんでした。最後の見事ニンジャのポーズを決めてみんなで「ニンニン」。そのあとは、利用者さんと一緒にたまご探しをして楽しみました！初めてで不安な気持ちもありましたが、利用者の方々とお会いすることができて、これから沢山一緒に楽しいことや嬉しいことを経験していきたいと思えました。

(めぐみ棟 看護師 時松将廣)



ひかり棟より

「晴れた日は楽しくシャボン玉♪」

暑さ日増しに厳しくなってきた今日の頃ですが、ひかり棟では元気いっぱい活動をしています。

晴れた日には外に出てシャボン玉♪風に乗って高く空へ上がっていくシャボン玉はとても綺麗で思わず手を伸ばしてしまいます。スタンプが飛ばすシャボン玉を目で追いかけて、夏の始まりを感じています。

機械に繋がるスイッチを押すと利用者さん自身でシャボン玉を飛ばすこともできます。長く押してみたり…。連続して押してみたり…。指先や肘を使って上手に飛ばすことができましたね。散歩中の方は飛んできたシャボン玉を見てびっくり！自然と笑みがこぼれます。みんなのことを楽しませてくれるシャボン玉です♪

(ひかり棟 保育士 山下莉奈)

「新人さんいらっしゃい」

私は4月から新人職員として働いています。

ひかり棟には同じ養成校の先輩方もおられ、暖かく見守られながら日々ご指導いただいています。毎日が学びの日々でいっぱいですが、正しい知識を持って介助することは利用者一人ひとりの支援に繋がっていると思います。介護福祉士と新社会人としての自覚を持って、慢心せず今後も励んでいきたいと思っています。

(ひかり棟 介護福祉士 松本ひらり)



Fルーム新人さん
いらっしゃい



イースター
エッグ作り

通所で頑張っています

運動会活動

今年もやってきました！運動会活動！選手宣誓から始まりラジオ体操でしっかり身体をほぐしたあとは…曜日対抗積み木リレー！

ブロックを20個積み、落とさないよう一周し、次の方にバトンタッチします。多数のブロックを一気に落としてしまい笑い声が響き渡りました。今年度の優勝は火曜日さんでした！

(通所 介護福祉士 平山 咲)



ラジオ体操で身体をほぐします



積み木リレー！
落とさないか
ヒヤヒヤ…



選手宣誓！！



あ…あぶない！！



最後はパラバルーン♪



今年もやってきました！お買い物活動♪

交流ホールにあおぞらマーケットがやってきました♪
ご招待券を持ち、いざショッピングへ。
各お店にお菓子や多肉植物…雑貨が準備され、
どの商品がいか品定め。
沢山の商品の中から選んでいただきました。
楽しい買い物気分を味わうことができました。



何にしようかな～♪
思わず笑顔がこぼれます。



ゲームコーナーもありますよ♪
パチンコを楽しみました。



通所の新しいスタッフです！！ 片岡美和子さん

ご利用者さん、勤続年数の長いスタッフの皆さん
ご無沙汰しておりました。

今年4月より地域療育部で仕事を覚えています。
これからもよろしくお願い致します。



重症者ホームひさやまより

「茅野文雄さん 歓迎会 お菓子パーティー」

5月21日に重症者ホームひさやまでは茅野文雄さんの歓迎会としてお菓子パーティーを開催しました。

茅野さんはガンダムが大好きとのことだったので新しくできた「ららぽーと」に大きなガンダムを見に行こうと計画をしていましたが、感染症の拡大を受けて急遽ホームでのパーティーに変更となりました。

外出が中止となり、少し残念そうな入居者の方もいらっしゃいましたが、たくさんのお菓子を見て大興奮でした。お菓子をテーブルに並べるとお菓子を指さして手を挙げアピールする方、何を食べようかわくわくして笑顔が止まらない方など反応は様々です。どんなお菓子があるのかなと覗きこんでみる方もいらっしゃいました。

プリンやゼリー・どら焼き、スナック菓子にチョコレートにアイスと様々な種類を準備しました。お菓子以外にも



ジュースや炭酸飲料・コーヒーなど飲み物も自由です。昼食を食べた後にも関わらず、みんなパクパクとおいしそうに食べられていました。サクサクのお菓子が好きな人や甘くてフワフワなお菓子が好きな人、それぞれ自分が好きなお菓子やジュースを選んで笑顔が多く見られました。

茅野さんを囲んで楽しい時間を過ごすことができました。これからたくさんのお出し出をみんなで作っていきましょうね。(重症者ホーム 介護福祉士 前田宏美)

「今年度のホーム紹介」

今年度から新たな取り組みを2つ始めましたので紹介します。まず、グループホーム便りを発行することになりました。

今年のホームは「みんなが笑顔」をモットーに入居者さん、ご家族・職員が楽しく生活できるように取り組んでいきます。行事や日常の様子を紹介していきますのでぜひお楽しみに！

そしてみんなが笑顔プロジェクトの取り組みの一つとしてホームの玄関にはメッセージボードを設置しています。メッセージボードにはクイズや今日は○○の日！等みんなが笑顔になるようなメッセージに加え、生花を飾ることもあります。飾っている生花を調べてその花を知り、花言葉を知って笑顔になっていきます。ホームに来る機会がありましたらぜひ見えてみてください。

新たな取り組み二つ目は食生活上委員会を設立しました。腸活をテーマに入居者の皆さんが楽しく美味しく腸活して健康を維持していくと発足され、最初の取り組みとしてお味噌汁の具材を検討しました。腸活にいい食材は何だろう、何がお味噌汁に入っていたら嬉しいかなと入居者の皆さんにも意見をもらいました。玉ねぎ・ジャガイモ・お豆腐に加え、

季節のお野菜も入れることを検討しています。夏はオクラやナス等・・・またお味噌汁以外にも中華スープやかきたま汁等も提供していくと思っています。今年も入居者の皆さんが楽しく生活できるように様々な行事を予定しています。行事だけでなく日頃の様子も紹介していきますのでぜひお楽しみにしてください。

(重症者ホーム 介護福祉士 前田宏美)





「暑中お見舞い申し上げます。」

じめじめと暑い日が続いておりますがいかがお過ごしでしょうか？
2年以上が経過してもコロナ禍で利用者さんとの面会やふれあいが
ままならない日々です。そこで久山療育園の日常をお届けしたく
利用者さん達の日常の一部を切り取りました。どうぞご覧ください。



先生とシャボン玉♪



お外の風は気持ち良いな～



鯉キングと鯉クイーン！



僕の勝ちーっ！



何を作ってるでしょーか！



晴れの日は気持ちいいなあ～



6月喫茶活動





お手紙活動



展示ウォークラリー制作



2022/04/22 10:52



2022/04/21 14:55

お誕生日会♪



夕食は親子丼!



髭を剃って通所に行く準備中



ハンバーガー美味しいな〜



お部屋で野球観戦



おやつタイム♪





藤田 英彦

わが「久山療育園」は、創立の当初から「ミットレーベン」(共に生きる)を合言葉に、「重症障害児を街の中心に」即ち「いと小さき者のいのちの尊厳」を大切にしながら「共に生きる」生き方を求めて歩みを進めてきた。

今回は、「共に生きる」実践者松居友・エイプリンさんご夫妻を紹介したい。

松居友さんは、児童文学者で「福音館」の社主・松居直さんのご子息であるが、上智大を卒業後世界を歩き、フィリピンのミンダナオ島に落ち着き、タガログ族の酋長の娘、エイプリンさんと結婚。ミンダナオの政府にも交渉支援を受けて「ミンダナオ子ども図書館(MCL)」を設立された。MCLは「子ども図書館」であるが、同時に現地政府からの支援を受けてダバオ市郊外の図書館と共に小学生から大学生まで約100人が共同生活を営む2階建て寮2棟と、更に

彼らがある程度自給生活できるほどの広い敷地を取得。そこにもう数十年になるが、先の大戦後も続く、所謂現地政府とゲリラとの闘いの戦争孤児を引き受け、生活を共にし、近くに在る学校に通わせ、希望する児には大学を卒業させていた。

大学を卒業した数人がMCLに戻り働いている。現在も百人近くの寮生たちが、仲良く暮らしている。それだけではない。松居友さんは、寮生だけでなく現在も頻発するゲリラ紛争のため孤児となった児や、家族で住む家を失い、生活困窮に苦しむ児童奨学金を日本国内にも一部呼びかけ約千人分の支援を行っている。

私事で恐縮であるが、実は、私の妻信子は戦前、両親が麻の栽培事業でミンダナオに移住。戦前は楽しかったが、8歳の時に、泥沼とジャングルの中を逃げまわり、B29のチラシで敗戦を知らされ、故国に引き揚げたという。

そして、どこかの平和集会で、松居友さんのMCLの話聞き、MCLの(小学生)里子制度に参加した。其のダイアナちゃんはもう高校生で、直ぐ大学生である。妻が80歳

になった時、我々夫婦は思い切つて彼女の妹と妹伴子に付き添いを頼み孫全員6人を連れて、ミンダナオ島のジャングルを訪ね、ダイアナちゃんを訪ねることにしてMCLの宿舎に、松居さんを訪ねてお世話になり、MCL寮で数日間お世話になったが、彼ら彼女らのみんなの祈りの朝は、イスラム教で、夕べは聖書を読むキリスト教であった。翌日、トラックで約5時間かけて、ダイアナちゃんの住んでいる部落に出掛けたが、途中で何度もストップがかり、これから先は、危険で進めないと止められたが、松居さんの説得で次々に進んだ。

ダイアナちゃんは、ゲリラと呼ばれているビサヤ族の児で、村に到着する約40分前に、先週撃ち合いのあったと云う場でストップがかかり、松居さんの交渉で、約20分前に進み、又20分ほど待たされた後、村の酋長とおぼしき人が、機関銃を持つ若者と共に現れ、その老人に導かれて村に入り、松居さんに紹介され、部族の人に囲まれたダイアナちゃんと感激的な出逢いがあった。また、妻がジャングルの命を命ながら逃げたという、3千M級のタモガン山の中腹は、広々とした視野になってお

り、広く舗装された道路が続き面影は全くなかった。戦後数十年掛けて日本の林業会社が鬱蒼とした森を切り倒してラワン材を日本に持ち込み、家財や勉強機にしたそうで、MCLはこの植林運動にも日本からの寄付に期待しながら手広く展開している。

孫娘はICUを卒業後、専門学校で学び、難民生活困窮家庭救援活動を経て数度MCLを訪ね、同じ時期に訪れた青年と仲良くなり、5月末に東京の恵泉教会で結婚式を挙げ、孫娘たちの証人代表を松居友さん・エイプリンさんご夫妻はして下さった。その披露宴の時、御二人とテーブルを隣にして話をすることが出来た。彼はまた静かに笑いながら「僕は最近、周りの部族の酋長から『お前は、本当に酋長だ』と認められるようになりました」と言われた。「酋長」は部族の長だけでなく障害者や、親を失った子どもを引き受け、母子困窮家族の面倒を見、また部族間に争いがあれば、中に入って仲裁し、部族同士が対立したもめごとには、酋長たちが共に集まってなるべく平和裏に解決する。私はお会いした時から「この人は酋長さんだ」と思っていた。「酋長」とは「南

洋の親方」ボスという侮蔑的意味を想起するが、前述の如く松居友さん夫婦は、ミンダナオ・ダバオ郊外の今も内戦の絶えない地で、「図書館」を根拠地にして千人をはるかに超える戦災孤児を学校に通わせ、零細困窮家庭を支援する「ミットレーベン」(共に生きる)を具体的に表現している方々である

と紹介したい。

顧みると、今の世界には大国に大統領は沢山いても、世界平和や民主国家を唱えながら、膨大な兵器を救援と称して輸出し、実は自国民の軍需産業を太らせ、国民生活困窮を顧みない。日本で言えば、唯一原爆被災国首相でありながら核禁止条約国会議に行かず、世界的な食用品等物価高騰を無視して、莫大な防衛費予算を計上して憚らない首相はいるが、本当に民衆と共に、喜怒哀楽を共にし、所謂、力による脅しでなく、話し合い、許し合い、譲り合つて「共に生きる」民衆の「酋長」の様な為政者を求めることは無理だろうか。

2022年度 久山療育園開園祭 (バザー、交流イベント、健康フェア等)中止のお知らせ

昨年度に引き続き、本年度の開園祭も中止のお知らせです。

毎年、多くの皆様にご来場いただきながら今年も中止の決定をお伝えすることになりました。ワクチン接種が進む中でもまだまだコロナウイルス終息の状況に至っておらず、当施設をご利用されておられる重症児者の皆さまとご家族の安全と健康を考慮し、6月27日の「開園祭実行委員会」におきまして中止することを決定致しました。大変残念な思いでございますが、何卒ご理解の程お願い申し上げますとともに、次年度こそはこれまで通りの楽しい開園祭の場でお会いできますことを、心より祈念しております。(尚、平素の支えへの感謝をささげる為、ボランティア・勤続職員表彰を兼ねた礼拝を9月23日金曜日(秋分の日)に実施致します。対象の方にはご案内を差し上げますので、宜しくご確認くださいます。)

バプテスト心身障害児(者)を守る会
理事長 宮崎 信義
久山療育園重症児者医療療育センター
センター長 岩永 知秋

ミットレーベン・ネットワーク 2022年度8月ワークキャンプについて

本年8月のワークキャンプに関して、ご連絡をいたします。心待ちにしてくださっていた皆様には、誠に申し訳なく思いますが、残念ながら本年も中止せざるを得ません。3年続けてですが、100人を超える大人数が療育園の中で過ごすというのは、まだ時期尚早のようです。

そこで今年度は、その代替案として8/11(木・祝日)に1日だけの「草刈りデイワーク」を計画しました。作業は療育園の外回りの草刈りです。9:30受付、作業は10:00～12:00、飲み物持参、昼食なし、小雨決行です。なお、小学生以下の参加は保護者の責任でお願いします。

また、保険加入の必要上、必ず所定用紙で事前の申し込みをお願いします。HP(<https://sites.google.com/view/mit-leben>)にも詳細を掲示しており、大雨や感染拡大などによる中止の場合は、これを通して連絡します。

重症児者と共に生きる「ミットレーベン・ネットワーク」会長 伊原幹治

ご協力ありがとうございました
(2022年3月1日～5月31日) 敬称略

【法人】

一般献金

アドナイ・シヤマ・イルエ教会、有明キリスト教会、飯田節子、井手加奈子、大牟田バプテスト教会、(学)西南女学院、(学)福岡女学院、栗田昌直、恵泉バプテスト教会、恵泉バプテスト教会女性会、(公財)福岡YWCA、相模裕一、(宗)日本バプテスト連盟南名古屋キリスト教会、(宗)日本バプテスト篠崎キリスト教会、西南学院バプテスト教会兄弟会、堤秀幸、東洋英和女学院中部宗教委員会、日本キリスト教団福岡女学院教会、日本バプテスト連盟堺キリスト教会婦人会、久山療育園手作品売上、福岡アルミ工業(株)、福岡第一ライオンズクラブ、豊前キリスト教会、防府バプテスト教会、法蓮寺仏教婦人会、山口正夫、匿名、立教女学院キリスト教センター、若松バプテスト教会
(以上8,670,317円)

【重症者ホーム】

一般献金

自動販売機売上献金、かたえキリスト教会、鳴戸陽介、久山療育園献金箱
(以上70,518円)

【施設】

一般献金

岡本好枝、香住ケ丘バプテスト教会、古賀和男、後藤香織、聖ミカエル幼稚園、高松常磐町キリスト教会、立石有梨佳、田中節子・由美、日本バプテスト連盟仙川キリスト教会、日本バプテスト連盟豊橋キリスト教会、松尾国利
(以上112,800円)

【献品】

NPO 法人大隅シオン舎(食食用エプロン他)、安部田欽也(葉書)、市川八幡キリスト教会(枕カバー他)、大場奈緒子(タオルエプロン)、踊真一郎(タオル)、久保山信(剛葉書)、古賀バプテスト教会枕カバー)、児湯キリスト教会女性会(タオル他)、新藤佐知子(葉書)、園田耕大(タオルエプロン)、田中由美(葉書)、西川美智子(アクリルたわし)、日本バプテスト春日原キリスト教会(マスク)、原尚美(マスクチェーン他)、目白ヶ丘教会女性会(タオル)、安井洋子(タオルエプロン)、山口正夫(葉書)、山口吉昭(葉書)
(以上10,080円)

【ミッドレーベン・ネットワーク】

一般献金

2021年度献金分
(以上2,296,085円)

「ロジテム九州さんより献品」



今年もロジテム九州さんより利用者の方のために何か、とお話しがあり、各病棟、通所で必要な物を検討してもらいました。

惠棟は点滴処置をするためのワゴン、光棟は感染対策としてユニット毎に動くことが多く、物品を移動するために少し大きめのワゴンが欲しいとのこと、通所は利用者を移動するときに、安全に介助者に負担が少ないようなものと希望があり、救護担架を購入しました。6月16日ロジテム九州さんから3人の方がみえられ、物品の贈呈式がありました。

ロジテム九州さんは福岡だけでなく佐賀や、鹿児島にも営業所があり職員の方が募金されたものをいくつかの施設に献品されているとのことでした。感染対策のため、利用者の皆さんを紹介できませんでしたが、いつもありがとうございますとお伝えしました。

(看護部長 吉本法生)

ボランティアだより

現在のボランティア活動の受入れ状況は、昨年度に引き続き、午前中のみ(12時半まで)登録ボランティアの受入れを継続しています。

この短い時間の中でも、来園され「洗濯物たみ」「縫物作業」「装飾づくり」と、本当に感謝しております。

また、昨年度に引き続き、来園が難しい方々の在宅ワーク(裁縫や活動用の制作物等)の作業依頼等にも、とても感謝しております。

昨年度に引き続き、このコロナ禍の中で、ボランティアの方々、教会の方々、また地域の方々とつながりを考えながら、何が出来るのかをボランティア委員一同、園全体で考えて取り組んでいきたいと思っております。

(ボランティア委員会 島津洋昭)

【専用メールアドレス】

ボランティアに関するお問い合わせの方法として、専用メールを開設しています。「興味があるけど、どんなことするのか心配…」
「行ってみたいけど、手続きは？」など、いつでもご質問いただけるようになっています。お気軽にご利用ください。

bora@hisayama-smid.jp



歩行器

皆様初めまして、歩行器の執筆を引き継ぐ事となりました。よろしくお願ひします。

本誌「愛の手」の最後のページに「歩行器」と名付けられた掲載が始まったのはどれ程前かは分かりませんが、改めて「歩行器」とはと考えてみました。

普段の生活の中ではその存在を意識する事はあまりありません。しかし私たちは皆一度はお世話になっていた事を思い出します。赤ちゃんが伝い歩きを始める頃、ベビー用歩行器に乗せられていました。また、高齢になると足腰が弱くなり、杖が必要となり、更に不安定な場合は体重を支えてくれる歩行器を使用し、自力での移動を保つことが出来ます。私たちは人生のどこかで歩行器の世話になっているのだと思ひ返されます。

久山療育園の中では、入所や通所の方々が日々リハビリに励んでおられるところに出会います。歩行器を使って一生懸命歩いておられる姿に、つい「がんばってね」と声をかけます。この時「歩行器君あなたのお陰で助かってますよ」とまでは殆ど気にかけていませんでした。しかし、力を引き出してサポートし

てくれる大切な役目を果たしてくれているのです。歩行器は自立を促す大切な無くてはならない役割を担ってくれています。

先日こんな会話が職員の間で聞かれました。「ごく小さな事に忠実な者は、大きな事にも忠実である。ごく小さな事に不忠実な者は、大きな事にも不忠実である。」これってためになる言葉ですね。「久山療育園では朝礼で、聖書の一節を読んでいます。短い言葉ですが、一日の仕事の始まりに、思いが整えられる事があります。こうした「言葉」もまた、心の歩行器になっている気がします。

本誌「愛の手」の歩行器としての役割を考えてみると、障がいを負った方々がどのような生活を送っておられるのか、こうした方々の存在を少しでも多くの人に知って頂きたいとの願ひ、「愛の手」が皆様のお手元に届くことでその一翼を担うことになるのではないかと。新型コロナウイルスの感染拡大も少し収まってきました。余談は許されませんが、様々な制限が少しずつ緩和されていくことを願って止みません。